

第3回 校長会議あいさつ

R2.5.26 稲垣

ようやく学校再開となりました。季節は初夏を過ぎようとしています。校内に子どもたちの声と笑顔が戻り、やっと「学校の春」がきた感じがします。しかしながら、新型コロナウイルスについては新規感染者が減少してきたというだけで終息したわけではありません。当面は気を緩めないように慎重に学校運営に当たっていただきたいと思います。

先日、西尾茶協同組合の皆様から、給食用にと抹茶をいただきました。その抹茶を使った給食用のゼリーを試食させていただきましたが、薫り高くたいへんな美味で、西尾の抹茶の底力を実感いたしました。6月19日の子どもたちの笑顔が思い浮かびます。

本日は二点についてお話します。

一点目は、学校再開に向けて特にお願いしたいことです。昨今の社会風潮として、学習の遅れや授業時間の確保、その対策としてのオンライン学習の導入等、子どもの「知」の成長面のみが問題視されていることに不安を感じています。言うまでもないことですが、学校教育では、学習指導要領に示されるように、子どもたちに「知・徳・体」をバランス良く育てなくてはなりません。しかしながら、三か月に亘る学校教育の停滞もたらす課題を、学習面のみに片寄って対策が議論されることは大変な失策です。目には見えにくいのですが、三か月の閉塞感は、子どもたちの心や体に、想定外の悪影響を及ぼしている可能性もあります。これに対しては、私たち教師が心を砕いてきめ細やかにケアしていかなくてはなりません。

学校の再開にあたっての具体策については、過日の臨時校長会でも示しましたが、当面は学習の遅れを取り戻すことに囚われず、子どもたちの表情や振る舞いを丁寧に見つめながらゆっくりと学級を作り、子どもたちの安心できる居場所を担保するように、各担任に

ご指導ください。児童生徒同士、児童生徒と教師の信頼関係があつてこそ教育効果は期待できます。

学校経営の当面の重点としては、集団生活で育まれる社会性と基礎学力の定着を図るために、児童生徒全員に安全かつ規則正しい日常を継続させることが第一と考えます。その上に、限られた時間の中で、児童生徒の人間関係形成を促進し生活に勢いを出させる学校行事や部活動等を無理のないように織り交ぜていくこととなります。子どもたちにとって楽しく、生きる力を育む学校づくりにご尽力ください。

二点目は、子どもたちに是非伝えておきたいことです。今回、コロナ禍が社会に暗い翳を落とす状況の中で、たくさんの心ある市民の方たちが寄付活動をされました。学校にも小中学生のためにと、マスクや消毒液、給食への補助、弁当の配布等々、さまざまなご支援をいただいています。このような西尾市の大人の温かさを学年の発達段階に応じた表現で伝えておきたいのです。長い休校の中で、子どもたちなりに不自由さや寂しさ、閉塞感を味わったことと思います。そういう子どもたちに、これから明るく元気に育てほしいと、大人たち皆で願っているということを伝えたいと思います。

市から配布される図書カードには、市民の代表である市長から「今、新しい気持ちで頑張るみなさんを応援する」というメッセージも添えられています。また、図書カード配布の主旨は、学習の助けになったり様々な興味関心を広げたりすることですが、それ以外にも、本を選ぶ楽しみが家庭内や友達間での話題となつて、明るい人間関係作りにつながっていくことを願っています。

感染拡大がこのまま終息することを願うばかりですが、再び拡大した時の対応についてもシミュレーションし、具体的な対応について校内で確認しておく必要があります。また、保護者や地域の方たちにもご理解とご協力がいただけるよう働きかけながら、全教職員の心と力を合わせての取り組みを期待いたします。